

各界から
応援メッセージ

1人の代表を選ぶなら橋爪さんだこて



新潟市で長崎先生とともに

幸せがしの名人

上越映画鑑賞会会長 増村 俊一
(「プー横丁」店主)

『幸せめつけた』の著者でもある、橋爪さんは幸せがしの名人だと思います。今回の合併により人々が不幸にならないように、彼は吉川区はもちろん、上越市にとっても必要な人です。ぜひ送り出して下さい。

趣味が合って……

前源小学校校長 高橋 正彦

橋爪さんと初めてお会いしたのは6年前、学校視察で来校され真剣に話を聞いていられたことが印象に残っていました。1年後、学校では「総合の学習」が始まり地域を知るといふことで、橋爪さんの牛舎を訪問させてもらった。それを機会に子供たちは色々有意義なお話を聞くことになりました。

私も、山野草の写真やコンピュータ等のことで趣味が合い、お付き合いさせて頂きました。ホームページには研修の跡がしっかり記録されています。

【メッセージは裏面にもあります】

誰も真似のできない活動

朗読ボランティア 小田 順子

子どもの頃からの橋爪さんを良く知っています。町議になられてからの26年間、たくさんの生活相談を受けられ、いつも弱い者、困っている人の味方として即対応されてきました。みなさんの生の声を聞き、行政に働きかけ、それをキチンと報告する。この橋爪さんの議会活動スタイルは、誰も真似ができません。心から期待します。



地元のために骨を折ってくれた

稲作農家 鈴木 寛一

代石へ来られてからずっと見てきました。河川の堤防かさ上げ、道路改良、農業集落排水など地元のために骨を折ってくれました。よくやってくれます。私は自民党支持者ですが、橋爪さんを100%信頼しています。

新生吉川区のため党派を超えて応援を

元山古志村立東竹沢小学校校長 細井 孝

吉川区の厳しい数字が示されたその時点で、私は、「一人の代表を選ぶなら、橋爪さんだこて」と思いました。大事な大事なこの政治戦、「保守だ、革新だ」などと騒ぎ立てた従来の狭い考えでは、新生吉川区の未来はありません。人柄も立派な橋爪さんを尊敬・信頼されている区民は大勢おられるでしょう。新市には党派を超えて橋爪のりかずさんをおくりこみましょう。

吉川のこれからを左右する重大な政治戦は目前です。こつしたなか、橋爪前吉川町議への応援メッセージが区内外から寄せられています。(敬称略)

新上越市のため羽ばたけ
新潟大学名誉教授 元学長
長崎 明

橋爪さんは、私が新潟大学学長の時に人文文学部に在学していたが、農家の長男だけに、当時私が顧問をしていた「農学系セミナー」で鍛えられた。卒業後、酪農をしながら町議を務め、更に『幸せめつけた』という名著を物する農民文学者でもある。

橋爪さんを生み育てた吉川「町」が無くなるのは残念だが、吉川のため、上越のために、この大器が羽ばたくのを期待している。

この人しかいない

元吉川町議 山本 嘉治



橋爪さんというと、議員になる前から統合中学校の入札問題に取り組み、入札改革を追求してきた人だ。政治を動かしてきた人

たちにとっては最もいやな存在だったと思う。合併したいま、吉川の政治の流れを変えるのはこの人しかいない。



NO 1181
2005.1.23

発行・編集 日本共産党吉川支部
/ F A X 548-3628 (有線) 4867
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www1.ocn.ne.jp/~hose/

日本共産党の見解を紹介します。



春よ来い 第四回 こねり

一月も下旬だというのに、まだ生のまま食べられる柿がありました。冷凍したり、低温貯蔵しておいた柿の話ではありません。秋にもいだ柿を常温でとっておいたものでも、まだ食べられる品種があるのです。この柿は「ふゆう」という名前の柿だとか。先日、ある家の玄関先で見つけてとてもうれしくなりました。

玄関先のバケツの中には、少し痛みはじめていたものの、色も形もすっかりとした柿が一〇個ほど入っていました。とても美味しそうなので、がまんできなくなりました。その家のお母さんに、「一つもらうっていいかいね」と声をかけたら、「なじよも、なじよも。一つなんて言わんでいくつでも持っていきなさい」。それで五個ももらうてきました。もちろんすぐに食べました。皮の部分はすっかりしていませんが、実はだいが軟らかくなっています。でもこの時期ですからね、柿の味を確かめることができただけでも大満足です。

この柿を食べながら思い出したのは、「こねり」と呼んでいた柿です。二〇年くらい前まで、わが家には、通称「サカソ」という所に直径三〇センチくらいの柿の木がありました。これが「こねり」でした。実の長さは五センチ弱。甘柿の中では最も晩生品種で、もいだけかりのころは硬くて食べる気にもなれませんが、わが家では、母が比較的低温が低いガンギにワラを広げ、そこに「こねり」を並べておきました。

果物がなかなか手に入らない冬場、こうして「貯蔵」しておいた「こねり」は、貴重な果物でした。家族みんなで、手ごろな硬さになったものから少しずつ食べました。たいがいは、皮をむかないで、手で表面をこすってがぶりとやりました。柿の甘みと冷たさが口の中に広がって忘れられない感触が残りました。

私のキョウダイは食い盛り、「こねり」は山ほどあったわけではありません。誰かが一日にいくつも食べてしまえば、少しの間は全部無くなってしまったでしょう。でも、誰も一度に何個も食べるようなことはしませんでした。家族みんなで楽しみ味わう。家の中で決めたわけではないのに、自然にそういうルールができていました。

そんなわけで、わが家の「こねり」も一月、ひよつとすると二月ころまでありました。外は雪の白一色。こうしたなかで、柿のだいだい色は、昔もいまもとても温かく感じます。

『幸せめつけた』を読んで元気もらう

トマト栽培農家 山岸 祐子



就農して5年。『幸せめつけた』を読んで元気をもらっています。雪と山間部の生活そして農業の苦勞と喜びを誰よりも知っている人。それを若い人に伝え皆の苦勞が実る様がんばっている橋爪さんに吉川の代表になって欲しいです。

家族から

長女 橋爪 りん

父は、いつもいそがしく飛び回り、家にいる時間が少ないのが実情です。災害が起きた時にはすぐに役場に向かい、ふだんは夜遅くまで書類や自らのレポートをまとめるなど仕事熱心な父です。

でも時間があるときには尾神岳に行き、野の花などの写真を撮ったりしています。吉川が大好きな父、よろしくお願いします。

生活・法律相談でがんばる人

弁護士 足立 定夫

橋爪さんほど、生活・法律相談で頑張る議員さんはいないのではないのでしょうか。困っている人たちのためにはじっとしてられない、彼の活動は貴重です。これからも奮闘してください。私も応援します。

尊敬している

元吉川町農業委員会会長 小田原清三郎

いまの農政に憤慨している。長い間、橋爪さんとやってきたが、尊敬している。がんばってほしい。

実行力、発言力とも抜群

元吉川町農業委員会会長 小山 正成

農地、年金相談など本当によくやってくれたと思います。実行力、発言力抜群の人です。ぜひ、吉川区代表としてがんばっていただきたい。

橋爪さんを応援します

真宗大谷派 専徳寺住職 松村 公雄

地域相談役メンバーに角張氏

一八日、上越市の「地域相談役会議」というのがスタートしました。この組織は各区の地域振興を円滑にすすめるために、市長がこれまで町村の首長（区）によって、助役や収入役の場合もある）だった人からアドバイスをもらおうというものだそうです。吉川区からは角張保前町長がメンバーに入りました。要綱による設置なので、市長の「補助機関」ではなく「私的諮問機関」という位置づけになっていますが、本来に必要な組織なのではないでしょうか。

この相談役は非常勤特別職で、れっきとした「市の職員」です。市役所本庁で定例会に参加している時はまだいいのですが、各区の総合事務所に姿を見せた時にどういう役割を果たすのか気がかりです。各区総合事務所の「最高幹部職員」として位置づけられていないのに、職員にはそういう感じで受け止められかねない、と思います。また、相談役動きによつては、これから設置する地域協議会の存在意義が薄れてしまつ恐れもあります。

設置要綱第2条2には、「次条に規定する相談役会議を組織する人は、市長の命により、総合事務所の他の機関の長その他の職員に対し、当該機関の所管する地域に係る前項に掲げる事項について必要な助言を行うものとする」とあります。この条項が一人歩きしたら困るなと思つて、地域振興課に問い合わせてみました。「市長の命により」というのがポイントで、市長の命令書もちゃんと出す、ということでした。命令書に記された範囲の中で助言を行う、あくまで市長を介して助言を行う。これが今後守られるかどうか、しっかり見ていきたいと思えます。

みなさんの願い、届けてきました

日本共産党上越地区委員会が一七日、木浦上越市長に予算要望などで申入れをいたしました。吉川区の住民のみなさんからお寄せいただいた一〇〇項目も入っています。

この申入れには橋爪前吉川町議も参加しました。文書による回答が来月上旬に出る見込みです。結果はお知らせします。



雪対策、特養待機者問題などで木浦市長に説明する橋爪前吉川町議。